

IV. 業績の見通し

通期の販売電力量および売上高につきましては、至近の動向を反映した結果、前回公表値（平成28年10月28日公表値）から変更はありません。

損益につきましては、供給力の状況を見極めていく必要があることから未定としておりましたが、泊発電所を年度内停止として、至近の火力発電所の稼働状況などを踏まえ、業績予想を算定しましたのでお知らせいたします。

平成29年3月期の連結業績予想につきましては、前期に比べ、売上高は、販売電力量の減少や燃料費調整制度に基づく電気料金の引下げによる収入の減少などにより、減収となる見通しであります。

利益は、経営全般にわたる徹底した効率化に継続的に取り組んでおりますが、燃料費調整制度に基づく電気料金の引下げによる売上高の減少が、燃料価格の低下による燃料費の減少を上回る一時的な要因に加え、火力発電所の定期検査基数の増加による修繕費の増加などにより、減益となる見通しであります。

この結果、売上高は7,070億円程度、営業利益は260億円程度、経常利益は120億円程度、また、平成28年8月の台風災害に伴う復旧費用の特別損失への計上などにより、親会社株主に帰属する当期純利益は70億円程度となる見通しであります。

期末配当予想につきましては、当期の業績を見極める必要があることから、普通株式および優先株式ともに引き続き未定とさせていただきますが、当社の配当方針である「安定配当の維持」を基本に業務運営を進め、配当予想が可能となり次第、速やかにお知らせいたします。

○ 連結業績見通し

29年3月期連結業績予想

(単位：百万円)

	通	期	
		対前回増減	対前期増減
売上高	707,000	同程度	△ 17,000
営業利益	26,000	—	△ 17,000
経常利益	12,000	—	△ 16,000
親会社株主に帰属する 当期純利益	7,000	—	△ 14,000
(対前期増減率) 販売電力量	(△5.7%程度) 270億kWh程度	同程度	△16億kWh程度

○ 単独業績見通し

29年3月期単独業績予想

(単位：百万円)

	通	期	
		対前回増減	対前期増減
売上高	679,000	同程度	△ 17,000
営業利益	21,000	—	△ 15,000
経常利益	7,000	—	△ 14,000
当期純利益	4,000	—	△ 13,000

※ 対前回増減は、平成28年10月28日に公表した業績予想との差を記載しております。

※ 通期の為替レートは109円/\$程度（1月以降115円/\$程度）、原油CIF価格は48\$/b1程度（1月以降55\$/b1程度）として想定しております。